

令和元年度第3回安城市総合教育会議録【要約】

日時 令和元年12月5日(木) 午後2時から午後3時43分
場所 教育センター2階 会議室
出席者 市長 神谷 学
教育委員会 杉山 春記 教育長
加藤 滋伸 教育長職務代理者
近藤 倉生 委員
伊奈 希 委員
久恒 美香 委員

出席した職員 永田博充 企画部長
杉浦章介 行革・政策監
早川智光 教育振興部長
近藤芳永 生涯学習部長
横山真澄 企画情報課長
神谷 徹 総務課長
上原就久 学校教育課長
久野晃広 生涯学習課長
名倉建志 スポーツ課
近藤一博 文化振興課長
岡田和之 アンフォーレ課長
太田芳樹 企画情報課課長補佐
島田雅仁 総務課課長補佐
澤田敦至 総務課課長補佐
足立雅之 学校教育課課長補佐
杉浦邦彦 企画情報課企画政策係長
山田紗織 企画情報課主事

傍聴者 なし
開会 午後2時
日程

- 第1 開会
- 第2 市民憲章の唱和
(市民憲章 唱和)
- 第3 あいさつ(要旨)

神谷市長：本日の議題の一つ目は第2次安城市教育大綱（案）について。パブリックコメントの前の最終案として提示させていただく。議題の二つ目としまして、学校教育課から安城教育充実プランについて。最後に、先月、本市の小中学校に通うお子さんが亡くなるという大変悲しい出来事があった。本日はこの件の報告もさせていただく。

日ごろから感じておられることなど、皆様方から率直な御意見をいただきたい。

杉山教育長：新教育委員会制度に移行前も、市長と教育委員会は、公式ではないが意見交換の場を設けていただいていた。法改正もあり、総合教育会議が開催されるようになり、同席いただいている市長部局の方々にも、広く教育行政を御理解いただく機会ができ、大変嬉しい。

本日の議題の中に、先月の小中学校に通うお子さんの自死・事故事案も含まれている。子どもが亡くなるということは断腸の思いである。その経緯等々を御報告させていただくので、忌憚のない御意見、御示唆をいただきたい。

企画部長：議題に入る前に、先日亡くなられた児童生徒のご冥福をお祈りして、1分間の黙とうをささげたい。

【黙とう】

第4 議題

議題（1）第2次安城市教育大綱（案）について
企画情報課課長補佐説明する。

伊奈委員：子どもたちや市民のことをよく思って作っていただいている。「プログラミング教育の実施をふまえ、ICT機器のさらなる有効活用の方途を探るとともに、設備の充実を検討します。」とあるが、期待をしている。研修などで公開授業があるが素晴らしい授業をされている先生方がたくさんいらっしゃる。ぜひ授業を録画したりして、その授業で使用了教材の内容を共有し、安城市全体の子どもたちが同じような教育を受けられるように考えていただきたい。

学校教育課長：いろいろなICTを使った実践を広く広報して、先生方に伝えていくことは大事なことである。様々なメディアで流しているが、より充実したい。

神谷市長：教育センターの中でも、指導の仕方というのは先生方で情報共有して、周知しているのか。

学校教育課長：センターの広報誌「啐啄」にいろいろな実践を載せている。市の指定研究でも行っているのだから、さらに充実という意味ではもっとできるの

ではと思う。

加藤委員：今までの会議の結果から、内容の追加、変更等、細かい部分まできちんと対応していただいて、とてもありがたい。

計画は実際に実行していくことが大事で、それぞれの立場で頑張っ実践できるか次第である。現行も部分的には不十分なところはあるかもしれないが、4年間実施してきたものを踏まえての新しい大綱ということで、安城市はきちんと取り組んでいるのでとても期待している。

それから、安城市としては総合計画があるが、先ほどの説明の中でも、学校教育プラン、第3次生涯学習計画推進計画、新図書館基本計画、第2次スポーツ振興計画など、いろいろな他の計画とあわせて、この教育大綱が基本になるので、しっかりと私たちも、この内容を忘れずに活かしていかなければと、改めて思う。

神谷市長：立派な内容なので実行してもらおうということを一番に希望しておられるということだが、実行ということに関して、進捗率を定期的にチェックするような体制はあるのか。

企画情報課長：大綱としては、総合計画との整合を図る形で本日も示させていただいたとおりで、それぞれに分野別計画を設けている。その中には、施策別にいわゆる成果指標を設けているものもあり、各分野別計画の成果指標等々の進捗管理の中で、個別分野別の計画の進行や達成率を計っていききたい。

近藤委員：道筋がついたので、あとは実行と結果が伴うように期待している。

久恒委員：学校教育の2番目で「豊かな心やたくましい体の育成と健康教育の推進」のところで「命の教育」というのがあるが、学校教育だけでなく、「命の教育」は家庭や生涯学習、スポーツなどのいろいろな分野で行っていかなければならない。授業だけでなく、行事の中でも教育を行ってほしい。

次に、「安全安心な学校給食」については、安心というのは保護者も子どもも安心して食べられるものが提供できると良いので、保護者の意見なども機会があれば聞きながら、安全安心な学校給食を提供していただきたい。

杉山教育長：今回の大綱については、「学校教育」、「生涯学習」、「文化・芸術」、「スポーツ」の4つの柱から成立している。これは行政的な区分でもあり、相互に関連する内容がたくさんあるので、4つの柱そのものにこだわらずに、常に総合的に考えていく必要がある。子どもの視点、大人の視点など視点を変えながらこの4本柱をトータルとして見せていきたい。また実行していきたい。

議題（2）安城教育充実プランについて
学校教育課長説明する。

久恒委員：不登校のところで、eライブラリーの活用があったが、学習につまずいている人にはまだ活用できていないという話があった。不登校のきっかけになることも多いと思うので、学習につまずいている人も使えるように取り入れて欲しい。

近藤委員：充実プランでいろいろなことが実施された。昨今話題になっている、先生たちの働き方改革は、部活動の適正化や事務処理の適正化などにつながっていて、ひいては先生たちの子どもとの触れ合いの時間を長くするということにつながっていくと思うが、その部分を書いていないので、改めて書く必要はないかもしれないが気になった。

加藤委員：数字が特に低かったのが、英語教育の充実とプログラミング教育である。先生たちは英語教育には自信がないのか。

学校教育課長：この2年間移行期間で、ALTの配置を増やしていただいた。

これから拡大していく小学校の3・4年生にも配置していただいて、外国語活動については、現状5・6年生も3・4年生も大変充実して行えていると思っている。ただ、来年度から始まる教科化で、5・6年生は英語が教科になり、担任が授業を行う。ALTの方も年間70時間のうち50時間は入っていただく予定になっているが、それでもやはり経験のない教員にとっては、いくら研修をしても不安が付きまとうということだと思う。そういう部分がこの低い数字になったのではないかと考えている。

加藤委員：研究発表会などで見させていただく限りは、外国語活動については、かなり取り組んでいる学校もあるが、学校によって自己評価の結果も違っていた。学校によって取組が違っているのではないかと思うがいかがか。

学校教育課長：校長先生の評価にバラつきがあるのは事実である。危機感を持っている学校や来年に向けて心配であると思い評価した学校もある。やっていることはやっているとして、高く評価した学校もある。私たちの聞き方も悪かったかもしれないが、そういう中でバラつきがあったと思う。

加藤委員：とても謙虚に回答された結果ではないか。先生たちのお話を聞いても、とても積極的に取り組もうとしている姿勢が見えるので、今後に期待したい。1つ心配しているのは、英語専科の先生が入っている学校がある。英語専科の先生が今後、どのように配置されていくかというのは文科省の方針によるが、基本的には英語専科の先生が来るかもしれないと考えるのではなくて、担任の先生が研修から学び取っていただいて、自分たちでしっかり教えるという姿勢を続けていただければと思う。

伊奈委員：保護者の方から安城選手権水泳の個人エントリー化の件でリレーのメンバーが組めなかったため、すごく残念な思いをしたとの声を聴いた。部

活動が縮小気味になっているため仕方がないことかもしれないが、安城市としてはオリンピックを契機としてスポーツを活発にしていこうと思っているのに、学校としては縮小という部分に少し矛盾を感じた。

子どもたちが残念な思いをしないところで先生方の業務を削減できないか。先生の数が増えれば個別的支援など、すべてが解決すると思うので、お願いしたい。北欧では1クラスに2人の先生が付くと聞いたこともあるし、小学校の低学年のうちから先生が1クラスに2人ぐらいついていてと勉強に苦手意識をもつ子も減ると思う。

杉山教育長：先ほど近藤委員から出された多忙化や、働き方改革に関するご意見について、少しお話をさせていただきたい。

この充実プランを始めてから2年経過した。その前のほぼ1年を掛けて、校長会等々と様々な協議をした。その折に、私は校長会でも、そしてまた、協議の場でも、前例にとらわれないということを強く言った。ただし、視点は教員の多忙化解消ではないということをはっきりその場で申し上げた。多忙化解消を視点に様々な教育活動を捉えると、切る方向ばかり考えて教育の低下を招きかねないという心配がある。したがってあくまでも子どもたちのために何がいいかとの視点にしてほしいと投げかけをした。

たとえば、自然教室の日程を短縮したのは、子どもは最近多様化しているので、その子どもたちの負担軽減、朝の部活動を取りやめたのも、子どもたちの健康保持という観点での措置である。教員の負担を減らすための充実プランではなくて、子どもたちにとって何がいいのかということを考えるプランであってほしいと繰り返しお話をした。

神谷市長：久恒委員からは不登校の子どもたちにeライブラリーをもっと拡充してもらいたいというお話があった。現在のeライブラリーの活用方法を簡単に紹介してほしい。

学校教育課長：eライブラリーには、ネット上に各教科のいろんな進度に伴ったプリント類などが単元別に網羅されている。全児童生徒個人個人にIDとパスワードを配付しているので、各自でeライブラリーに入って、自分の進度に合わせて復習などができる。学校でも、個人の進捗状況が把握できる。子どもたちが自分の思いと、自分の学習状況を考えてこれをやりたいという自主的な学習を補助するための支援ソフトである。

活用については当然パソコンがいるが、たとえばふれあい学級にはパソコンを常備しており、中学校でもタブレットやパソコンを持ち込んで、教室に入れない子どもたちが別室で、自分たちの興味関心や自分の状態を確認しながら選んで勉強を進めていくことができる。

したがって教室に入れない子どもたちが、その時間を十分に活用ができるよ

うな状況になっている。普通に学習を受けている子たちも家に帰ってから家庭学習でもそれが活用できるが、そちらはあまり進んでいないという状況である。
神谷市長：次に教員の増員についてもなかなか難しいと思うが、コメントをお願いしたい。

杉山教育長：教職員定数の改善という意見は、既にここ何年もいろんな関係団体からも出ている。私が本年度も県の都市教育長協議会の会長を務めているので、その県の都市教育長協議会からも、また町村の教育長協議会、それから愛知県市町村教育委員会連合会からも、常に県を通して国に要望をしている。

なかなか改善されないが、毎年同じように、教職員定数を増やしてほしいと要望している。

神谷市長：納得はいかないかもしれないが、今の実情について紹介があった。ご承知おきいただきたい。

次の議題（３）については、個人情報が含まれているため、議題の題名は公開するが、内容については非公開とする。

議題（３）児童生徒の自死・事故事案について【非公開】

神谷市長：以上で議題はすべて終了したが、安城市の教育行政に対して、その他にご意見があればお願いしたい。

加藤委員：来年度の予算でこれまでは教育センターだけであったふれあい学級が２ヶ所増える。地域の近い場所で、子どもたちが行きやすい場所で設けていただいたのはありがたい。

伊奈委員：プログラミング教育については、例えば専門家の先生にお願いして担任がサブに入るといった形だと、教員の不安が少なくなるのではないかと思う。次に、プラネタリウムの入場券を小・中学生の子どもに２枚ずつ配付していただいて、喜んでいるという声をよく聴く。

生涯学習課長：６月補正予算で全小中学生に２枚配付するように要求をして１０月下旬ごろから配付をしたので、その券を持って子どもたちがプラネタリウムを観に来ている。

第５ 事務連絡

第６ 閉会

閉 会 午後３時４３分